

平成20年2月8日

各 位

会社名 松尾電機株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 清水 巧
 (コード番号: 6969 大証第2部)
 問合せ先 執行役員総務・経理部門長 竹野井 薫
 (TEL: (06)6332-0871)

平成20年3月期業績及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等をふまえ、平成19年10月19日に公表した、平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

A. 通期業績予想の修正

1. 連結業績予想の修正

(単位: 百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,550	△ 320	△ 310	△ 350
今回修正予想 (B)	8,500	△ 420	△ 430	△ 520
増減額 (B-A)	△ 50	△ 100	△ 120	△ 170
増減率 (%)	△ 0.6	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,110	△ 216	△ 231	115

2. 単独業績予想の修正

(単位: 百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,500	△ 370	△ 350	△ 390
今回修正予想 (B)	8,450	△ 520	△ 530	△ 680
増減額 (B-A)	△ 50	△ 150	△ 180	△ 290
増減率 (%)	△ 0.6	—	—	—
前年同期実績 (平成19年3月期)	8,049	△ 197	△ 206	41

B. 配当予想の修正

	中間期	期末	年間
前回発表予想(1株当たり)	—	3.00 円	3.00 円
今回修正予想(1株当たり)	—	2.50 円	2.50 円
(ご参考) 前期の配当実績(1株当たり)	—	3.00 円	3.00 円

C. 修正理由

【連結】

当社グループは tantalum コンデンサ、回路保護部品の製造・販売を主たる事業としており、当第3四半期末までの連結総売上に占める割合は前者が約81%、後者が約13%です。

当第3四半期末までの期間に於いて、収入面については、主力の tantalum コンデンサは、自動車向け品については堅調に推移し、また、自動車以外の携帯電話、ビデオカメラ、デジタルカメラ等の民生電子機器市場に於いて、下面電極構造チップ tantalum コンデンサを中心に販売促進活動を展開した結果、tantalum コンデンサの出荷数量は前年同期比15.5%増加しました。しかしながら、民生電子機器市場に於ける tantalum コンデンサの販売価格は、セットメーカー間の価格競争激化の影響で当初の予想水準を超えて低下し、売上高は前年同期比2.1%の増加にとどまりました。

回路保護部品につきましては、メモリーカード等の過電流保護向けに5面電極マイクロヒューズの出荷数が増加し、売上高は前年同期比25.5%増加しました。

以上、当社グループの連結売上高は、ほぼ計画通り推移し前年同期比4.2%増加しました。

しかしながら費用面につきましては、前年同期に比して大幅に出荷数の増加した下面電極構造チップ tantalum コンデンサの歩留りを、下半期半ばを目途に計画値まで改善する予定でしたが、出荷数の多い「超小型大容量品」について改善計画が遅れ、製造費用が目標水準を超えて推移しました。

以上の結果、当第3四半期末までの損益面につきましては、tantalum コンデンサ部門は、上半期の採算状況が継続し、他方、回路保護部品は、5面電極マイクロヒューズの売上が急速に増加して採算面に寄与しましたが、連結営業損失は、誠に遺憾ながら両部門を合わせても計画値より悪化しました。

今後の見通しにつきましては、下面電極構造チップ tantalum コンデンサの需要は今後とも増加するものと見込んでおり、当該コンデンサの歩留り改善は当社グループの業績改善のための最重点課題であるため今後とも尽力する所存ですが、出荷数の多い「超小型大容量品」については漸次改善はするものの今期末までに計画した歩留りを得ることは難しいと見込んでいます。

他方、回路保護部品につきましては、上述したように5面電極マイクロヒューズの売上が、メモリーカード向け等に順調に増加しており、第4四半期以降も海外市場への投入等、この傾向は続くものと見込んでおり、増産体制の整備・品質改善に努める所存です。

以上、第4四半期は第3四半期とほぼ同様の状況で推移し、当下半期の営業赤字幅は、当上半期に比して縮小するものの、通期連結営業損失は平成19年10月19日に公表した数値より悪化するものと見込んでいます。このため経常損失以下の各損失も、前回発表値より悪化するものと見込んでいます。

【単体】

上記【連結】に記載した理由と同様の理由により、前回発表値を修正いたします。

ただし、特別損失については、北米市場において当社製品を販売していますマツオ・エレクトロニクス・オブ・アメリカ（100%出資・海外連結子会社）の業績の回復が遅れており、第4四半期の状況如何では今期末に於いて当該子会社株式の実質価値が著しく低下していると判定せざるを得ない蓋然性があるため、未確定ではありますが業績への影響として、子会社株式に係る評価損の見込み額、約84百万円を含めています。

上記の業績予想の修正のため、当初予想の1株当たりの期末配当金を3円00銭と発表していましたが、今回2円50銭に修正させていただきます。株主の皆様方には、深くお詫び申し上げます。

(注)上記業績予想につきましては、現時点で入手利用可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、様々な不確定要因が内在しています。今後当社グループを取り巻く市場の経済情勢等により実際の業績は、上記記載の業績予想数値と異なる可能性があります。

以 上